

# 計算機用日本語基本形容詞辞書について

7G-3

橋本 三奈子

廣瀬 茂

村田 賢一

(情報処理振興事業協会)

## 1. はじめに

I P A 技術センターでは、動詞、形容詞、名詞の順序で計算機用日本語辞書を作成している。動詞については、「計算機用日本語基本動詞辞書 I P A L (Basic Verbs)」として公開したが、現在は「計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)」の試作を完了し、公開の準備を進めている。

今回の形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives) は、動詞辞書で採用した記述方針を継承しているが、形容詞に特有の問題も扱っている。

本論文では、当辞書における下位区分の方法と、試作を完了して得られた結果について報告する。

## 2. 下位区分の方法

形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives) は、基本的な形容詞約 130 語の見出し語 (エントリ) をいくつかに下位区分し、それを一つの単位 (サブエントリ) として、意味、形態、統語、連語に関する情報を記述したものである。

各記述項目については、前回の大会で発表しているため、今回は、計算機用辞書で重要な役割を果たす下位区分について、その方法を詳しく論じる。

この辞書では、第一に見出し語 (エントリ) を意味の違いによって下位区分し、第二に統語情報の違いによって下位区分している。さらに詳細に言えば、統語情報の中でも、連体用法と述語用法に着目して下位区分している。

### 2.1 意味による下位区分

まず第一に見出し語 (エントリ) を意味の違いによって下位区分している。

意味の違いによる下位区分とは、たとえば「丸い」であれば、次のような区分の仕方である。

- 丸い(1) 形が円または球に近い  
例 丸い形, 顔が丸い
- 丸い(2) まるみを帯びている  
例 丸い角, 鉛筆の芯の先が丸い
- 丸い(3) 態度が穏やかで協調的である  
例 丸い性格, 彼は人柄が丸い

### 2.2 連体用法による下位区分

連体用法欄は、意味の違いによって下位区分したサブエントリに対し、連体用法になる場合の被修飾名詞を記述するものである。

例えば、「丸い(3) 態度が穏やかで協調的である」という意味をもつサブエントリでは、「丸い人柄、丸い性格」という連体用法が成り立つので、「人柄、性格」という被修飾名詞を記述している。

連体修飾される名詞を集めていくと、その意味素性が大きく違う場合がある。

例えば、「丸い(1)」の「形が円または球に近い」という意味をもつサブエントリを考えてみる。この意味で「丸い～」となるような被修飾名詞を集めると、次のように二つのグループに大別できる。

- 丸い(1.1) 形, 形状, 輪郭 ……  
〈「形」という属性名を表す抽象概念〉
- 丸い(1.2) ケーキ, 眼鏡, 顔, 目 ……  
〈「丸い」属性を持つ具体物〉

このような名詞の意味素性の違いがある場合には、意味の違いで分けたサブエントリをさらに下位区分している。

### 2.2 述語用法による下位区分

述語用法欄は、連体修飾される名詞が格に現れる述語用法を記述するものである。

述語用法の中でも、文型 (格形式の組み合わせ) の違いや名詞句と名詞句の関係の違いによってさらに下位区分した。

例えば、先の例の「丸い」の(1.1)であれば、「丸い形」「丸い輪郭」という連体用法に対応する述語用法の文型は次のものがある。この辞書では、「丸い」の(1.1.2)のような構文も一つの文型として認めている。

- 丸い(1.1.1) 文型: Aガ 丸イ  
例文: このケーキの形は 丸い。  
彼の顔の輪郭は 丸い。

- 丸い(1.1.2) 文型: Bガ Aガ 丸イ  
例文: このケーキは 形が 丸い。  
彼の顔は 輪郭が 丸い。  
彼は 顔の輪郭が 丸い。

「BガAガ丸い」という同じ文型でも、「彼の顔」と「輪郭」との関係と、「彼」と「顔の輪郭」との関係とでは違いがある。この名詞句同士の関係の差異によって、結局、述語用法欄は次のように三つに下位区分できる。

丸い(1.1.1) 文型：Aが 丸イ  
 A : このケーキの形, 彼の顔の輪郭  
 例文：このケーキの形は 丸い。  
 彼の顔の輪郭は 丸い。

丸い(1.1.2a) 文型：Bが Aが 丸イ  
 B : このケーキ, 彼の顔  
 A : 形, 輪郭  
 例文：このケーキは 形が 丸い。  
 彼の顔は 輪郭が 丸い。

丸い(1.1.2b) 文型：Bが Aが 丸イ  
 B : 彼, この眼鏡  
 A : 顔の輪郭, フレームの形  
 例文：彼は 顔の輪郭が 丸い。  
 この眼鏡は フレームの形が 丸い。

このようにして、「丸い」は図1のように下位区分した。

下位区分したそれぞれのサブエントリについて、次の情報を記述している。

意味情報 (意味記述, 意味分類, 関連語, 評価, 快/不快, 段階的/非段階的の区別)  
 形態情報 (表記, 語幹, 語尾, 異音同語, 派生語, 複合語)  
 連語情報 (連体用法, 慣用表現, 副詞的修飾句)  
 統語情報 (連体用法における被修飾名詞, 述語用法における文型, 名詞の意味素性, 名詞句の例, 文例, 述語素)

### 3. 試作結果の整理

約130語の形容詞の辞書の記述を終え、現在は公開のための整理を行っているが、興味深い結果がいくつか出ている。

例えば、ガガ構文も一つの文型として扱ったため、名詞句同士の関係の差異によって下位区分されたサブエントリの数が、動詞に比べてかなり多くなったということが挙げられる。

また、意味情報として、段階的/非段階的という分類を行ったが、「非段階的」な形容詞が極度に少ないという結果も出た。

この辞書では、「ビルが高い」のように段階的な程度性が見られるものを「段階的」とし、「しっぽが無い」のように程度性が見られないものを「非段階的」とした。

英語については、「非段階的」に非常に近いと思われる「classifying adjective」という範疇をたてている辞書<sup>(4)</sup>があり、これを見るとこの範疇に入る形容詞が相当な頻度で現れる。'abandoned' (捨てられた), 'abject' (卑屈な), 'abnormal' (異常な), 'aboriginal' (原住民の) などのように、英語の「classifying adjective」に対応する日本語の表現は、概ね「名詞十の/な」(または形容動詞)や動詞句といった複合的な表現になるものが多いようである。

### 4. おわりに

形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)は、今年度中に公開する予定である。記述結果にさらに検討を加え、質の高い辞書をめざしたい。

### 謝辞

共同研究者であるワーキング委員、臨時ワーキング委員の方々に深く感謝の意を表す。

### 参考文献

- (1) 村田賢一・広瀬茂・橋本三奈子：計算機用日本語形容詞辞書の試作，情報処理学会第38回全国大会論文集，1988。
- (2) 廣瀬茂：計算機用形容詞辞書の試作，情報処理振興事業協会技術センター第7回発表論文集，1987。
- (3) 西尾寅弥：形容詞の意味・用法の記述的研究，秀英出版，1972。
- (4) COLLINS COBUILD：COLLINS COBUILD ENGLISH LANGUAGE DICTIONARY, William Collins Sons & Co.Ltd, 1987。

